

6つの大綱 地域の個性をいかし 豊かな心を育むまちづくり

その3

子どもたちが自ら学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感できる教育を目指すとともに、すべての市民が豊かな人間性を育みながら楽しく自分を磨くことができるまちづくりを進めます。また、郷土への愛着と理解を深め、固有の歴史と文化の保存・継承に取り組みます。

施策の体系

- 1 未来を担う子どもたちの教育環境の充実
- 2 豊かな心を育む生涯学習の充実
- 3 多彩な地域文化の継承・形成
- 4 生涯にわたるスポーツ・レクリエーションの振興

10年後の大崎市

- たくましく確かな学力をもち、心豊かな児童・生徒が増えている。
- 自主的に学習する人と学習意欲をもつ人が増えている。
- 郷土の歴史や文化を理解し、活動する人が増えている。
- 生涯にわたりスポーツやレクリエーションを楽しむ人が増えている。

6つの大綱 活力あふれる 産業のまちづくり

その4

市民生活の豊かさや地域の活力を高めることを目指し、産・学・官の連携を推進し、基幹産業である農業、林業、商工業、観光業の振興に取り組みます。また、産業間の連携の促進や新たな産業創造への取り組みを支援するなど、総合的な産業振興を進めます。

施策の体系

- 1 誇りある農業の振興
- 2 新たな期待に応える林業の振興
- 3 活性化する商工業の振興
- 4 魅力ある観光の振興
- 5 安定した就労・雇用の支援
- 6 総合的な産業振興の推進

10年後の大崎市

- 多種多様な高付加価値の農産物が生産・販売され、基幹産業の中心を担っている。
- 森林が適切に管理され、木材の需要が高まるなど、林業の再生が進んでいる。
- 商工業が活性化し、地域の活力が向上している。
- 魅力的な観光地づくりが図られ、観光客でにぎわっている。
- 関係機関や企業との連携により、市民の就労が増えている。
- 総合的な産業振興が図られ、地域経済が活性化している。

市政運営

4つの理念

宝の都(くに)・大崎

安全
安心

自立
協働

改革
挑戦

活力
交流

・行政 ・市民
・企業 ・団体

安全・安心 市民だれもが、豊かな自然と共生し、安定した生活基盤の上に、安全で安心な暮らしができるまちづくりを推進します。

活力・交流 人・物・情報・文化の交流、地域間や国内・国際交流を通し、活力とにぎわいのある元気なまちづくりを推進します。

自立・協働 市民や地域、各種団体と行政が自主的・自立的に活動できる基盤の確立に向け、それぞれの個人・組織、企業が役割を分担・補完しながら共に考え、歩むまちづくりを推進します。

改革・挑戦 市政の経営改善策を明らかにし、新たな道のりを市民との協働により歩み、よりスリムで質の高い効率的な行政運営を実現します。また、「地方の世紀」といわれる地方分権時代にふさわしい自立した自治体(地方政府)をつくり持続的な発展へ挑戦します。

施策の大綱

まちづくり6つの大綱

将来像と基本理念を踏まえ、それらを実現するためのまちづくりの指針を次のように設定します。

6つの大綱 市民が主役 協働のまちづくり

その1

市民はまちづくりの主役として、行政は地方政府として自立することを目指します。市民と行政がそれぞれに自立し、お互いがパートナーという意識付けのもと、地域やボランティア、NPOなどの各種団体、事業所、行政が、役割や特徴を生かしながら、協働によるまちづくりを進めます。

施策の体系

- 1 共に「はぐくむ」協働のまちづくり
- 2 男女が共に担うまちづくり
- 3 多彩な地域文化の継承・形成
- 4 市民の生活を支える行財政改革の推進

10年後の大崎市

- 自主的にまちづくりに参加・参画している人が増えている。
- 男女が性別にかかわらず能力を発揮し、共にまちづくりを担っている。
- 安定した行財政基盤に立ち、市民に理解され納得される行政を運営している。

6つの大綱 安全安心で 交流が盛んなまちづくり

その2

防災対策の強化や災害時の対応力の向上、犯罪や交通事故の減少、差別や偏見のない社会など、日常生活における安全性を高め、安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、暮らしの利便性の向上や地域間などの交流を促進するため、都市基盤、交通基盤の整備に取り組みます。

施策の体系

- 1 円滑な道路環境の整備
- 2 快適に暮らせる公共交通の充実・強化
- 3 地域資源を活かした地域間交流、国内・国際交流の推進
- 4 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化
- 5 機動的な消防・救急体制の充実
- 6 地域ぐるみの交通安全対策の強化
- 7 地域で守る防犯対策の強化
- 8 みんなで取り組む平和と人権の尊重

10年後の大崎市

- 安全で快適な道路空間が増えている。
- 公共交通機関を利用する人が増えるとともに、交通弱者にやさしいまちになっている。
- 多くの人が訪れ、まちが活性化している。
- 災害から身を守る自助・共助・公助の体制が確立され、有事の際の備えができている。
- 火災の被害が減少するとともに、救命率が高まっている。
- 交通事故の加害者と被害者がともに減少している。
- 犯罪の加害者と被害者がともに減少している。
- 平和の尊さを市民一人ひとりが認識し、互いを認め合う社会になっている。

